

スタッフ教育用ビデオの作成

—人工股関節全置換術の看護を取り上げて—

Trial demonstration video for nursing trainees of pre&post operation care of patients who have undergone THA (Total Hip Arthroplasty)

東3階病棟：小野 明子・佐藤美穂子・新田麻由子
林 史恵・福嶋 規子・藤岡 智子
三沢 志保・二木 朗江

〈要 旨〉

ビデオによる教育は、複数の指導者による指導、業務と併行して行われる指導に比べ、系統立てた指導、看護方法の統一を図ることに有効であると考えた。そこで、人工股関節全置換術(以下 THA)の看護についてビデオを作成し、当病棟のスタッフ(14名)に視聴後の評価をアンケート調査した。

ビデオは、繰り返し自己学習することができ、看護の流れをイメージしてケアに臨めるので患者に与える不安が少なくなる。また、指導者側の負担が軽減する。自作ビデオは、その病棟独自の看護を学ぶことができ、作成者側も看護を振り返ることで学習効果が得られる。教育効果を上げるためには、4、5月の早期に視聴し、指導者が一緒にビデオを観ながら内容を補足する。そして新しい看護が導入されるたびビデオを再編していく必要がある。

今後、ビデオ作成の技術を高め、教育方法の一つとしてビデオを活用していきたい。

〈キーワード〉

ビデオ 教育 人工股関節全置換術

1. 研究動機

臨床の現場において、看護の質を維持するための教育は重要である。

当病棟においては、スタッフの教育をする際に、資料・文献による学習と、実際の看護場面で指導者が一緒に行いながら指導している。その中で新人にはプリセプターがつき、系統立てた指導が行われている。しかし、ローテーションスタッフの教育に関しては、指導者や指導内容の統一が図りにくいのが現状である。

近年、教育方法の一つとして、視聴覚機器を導入しての教育効果が言われている。

ビデオによる教育は、複数の指導者による指導、業務と併行して行われる指導に比べ、系統立てた指導、看護方法の統一を図ることに有効であると考えられる。そこで今回、ビデオを作成し、その内容と有効性について検討した。

2. 方 法

- 1) 当病棟で昨年手術件数が42件と多く、手術に際して多様な物品を用い、合併症予防や患者指導のためのケアが重要である人工股関節全置換術(以下 THA)の看護を取り上げ、術前・術後の看護についてビデオを作成した。
- 2) 当病棟のスタッフ(14名)に視聴後の評価をアンケート調査した。

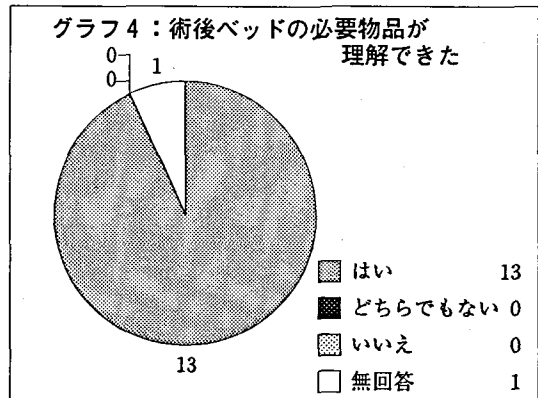
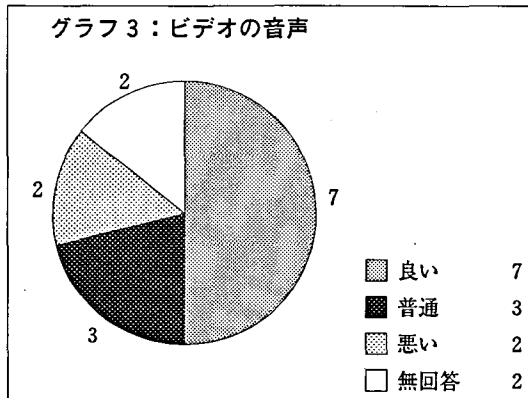
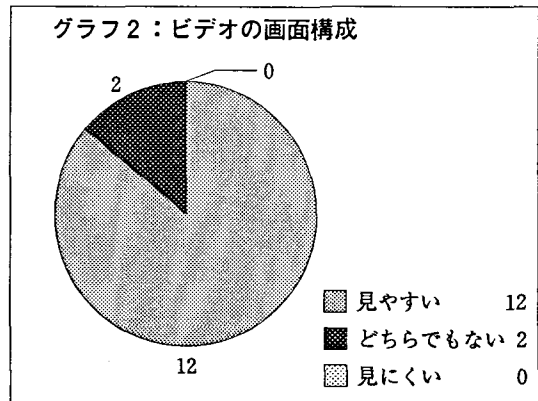
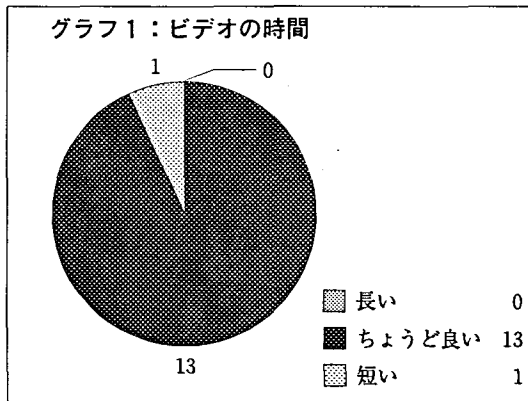
3) アンケート結果を集計・分析・検討した。

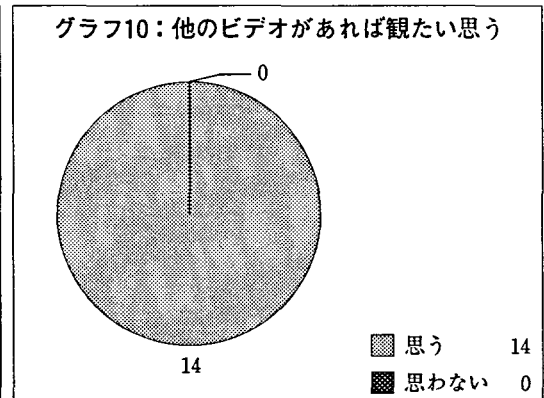
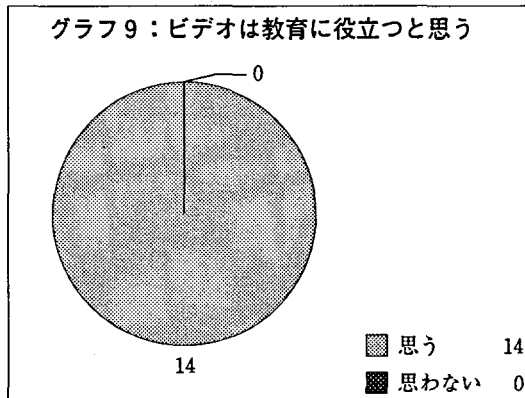
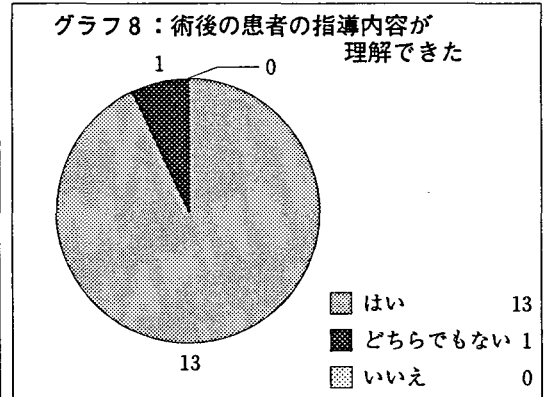
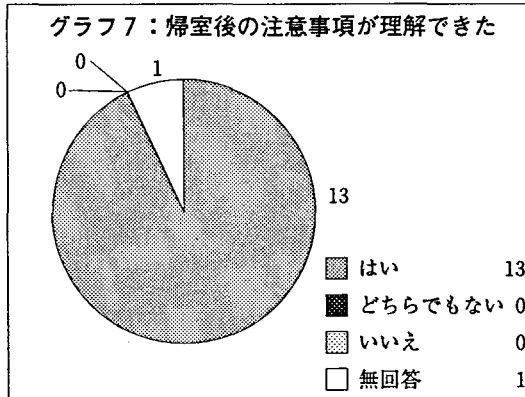
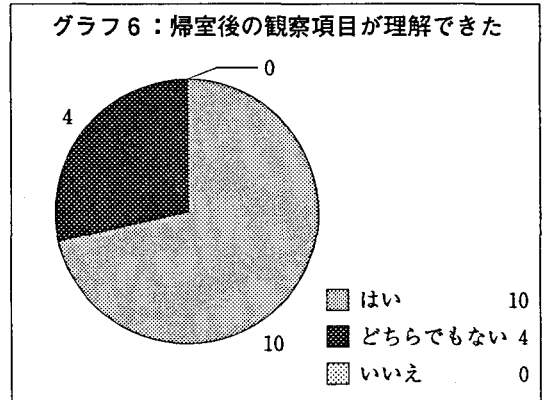
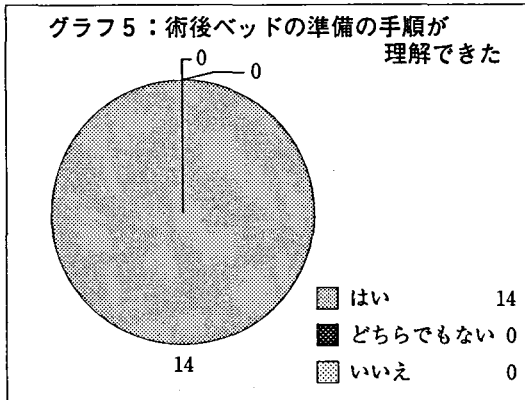
3. 結果

THA の術前・術後の看護を文章化し、シナリオを作成した。そして、患者役、看護婦役、ナレーター、カメラマンなどを分担し、約13分間のビデオを撮影した。

<アンケート結果>

- ・ビデオの時間については、「ちょうど良い」という意見が多かった。(グラフ1)
- ・画面構成については、「細かい部分が見にくい」という意見が聞かれたが、ほとんどの人は「見やすい」という回答であった。(グラフ2)
- ・音声については、「声が小さい、遠い」という意見が多かった。(グラフ3)
- ・術後ベッドの必要物品については、ほとんどの人が「理解できた」と答えた。(グラフ4)
- ・術後ベッドの準備の手順については、全員が「理解できた」と答えた。(グラフ5)
- ・帰室後の観察項目は、「理解できた」が10名、「どちらでもない」が4名であった。(グラフ6)
- ・帰室後の注意事項・術後の患者の指導内容については、「理解できた」という意見がほとんどであったが、細かい点の不備を指摘された。(グラフ7, 8)
- ・このようなビデオは、「新人・ローテーション看護婦の教育に役立つ」と全員が答え、「他の看護のビデオも観たい」と全員が答えた。(グラフ9, 10)
- ・ビデオ作成にあたり工夫した方が良いと思われる点については、「絵や文字を利用したほうが良い」という意見が聞かれた。





4. 考 察

今回、私達は、スタッフ教育用ビデオを作成した。

資料や文献による学習に加え、ビデオを実際に視聴することで、短時間で疾患の看護の流れをイメージしやすく、繰り返し自己学習をすることができる。そのため、患者に対して、落ち着いてケアに臨めるので、患者に与える不安は少ないと考えられる。

また、業務と併行しての指導は、指導者側の負担が大きい。そこで、ビデオを観ることで指導者側の負担が軽減すると考えた。

自作ビデオは、その病棟独自の看護を学ぶことができる。そして、作成者側も看護を振り返ることができ、学習効果が得られる。

私達は、ビデオをスタッフ間で共有することで、統一した看護を継続することができると考えた。そのためには、新しい看護が導入されるたび、ビデオを再編していく必要があると考える。

今回ビデオ視聴の対象者は、新人・ローテーションスタッフとし、経験年数に違いがあり、そのため、アンケート結果では新人にはもっと詳しい説明が必要なのではないかという意見があった。今後、新人に対しては、指導者が一緒にビデオを観ながら内容を補足することで、より一層効果が上がると考える。

さらに教育効果を上げるためには、視聴時期を4、5月の早期にすることが望ましい。早期に視聴することで、その看護をイメージすることができ、患者に関わりやすくなると考える。

ビデオ時間は、観る側も作る側も負担が少なかった。しかし、初めてビデオを作成したので、画面構成・音響効果・表現方法の技術不足があり、ポイントを押さえてビデオを作成することができなかった。今後ビデオ作成の技術を向上させていく必要があると考える。

5. まとめ

教育方法の一つとして、視聴覚機器を導入しての教育は有効である。

6. おわりに

今後、ビデオ作成の技術を高め、系統立てた指導・看護方法の統一のため、教育方法の一つとしてビデオを活用していきたい。

参考文献

- 1) 大塚綾他：看護研究シリーズ THA 患者に対する術前オリエンテーション—試作したビデオ映像の経験—, 整形外科看護, (5)1, 90-93, 2000.
- 2) 岡崎寿美子他：自作VTR導入と学習への効果—単元「移動」とおして—, 第22回看護教育, 280-283, 1991.
- 3) 藤田三恵他：自主ビデオを取り入れた新人教育の効果—清潔介助業務評価基準表を用いて, OPE nursing, 11(1), 55-59, 1996.
- 4) 堀文子他：基礎看護技術におけるビデオ利用について, 日本看護研究学会雑誌, 18(2), 40-41, 1995.
- 5) 安富小織他：自作ビデオを活用した基礎看護技術学内実習の効果, 日本看護科学学会学術集会講演集, (19), 556-557, 1999.